

PAT-NO: JP408293682A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08293682 A

TITLE: SOFT CASE OF WIRELESS PORTABLE EQUIPMENT WITH PROTECTION COVER

PUBN-DATE: November 5, 1996

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

MATSUSHIMA, JUNJI

NAKADA, EIJI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

MITSUBISHI ELECTRIC CORP

N/A

APPL-NO: JP07101446

APPL-DATE: April 25, 1995

INT-CL (IPC): H05K005/02, H04B001/38

ABSTRACT:

**PURPOSE:** To provide a soft case of a wireless portable equipment with a protection cover which can provide an excellent operability and portability even if it is applied to the wireless portable equipment with a protector cover.

**CONSTITUTION:** A soft case 10 accommodates a portable phone S with a protective cover 102 to cover operation keys 101. The head of a main body 103 of the equipment is housed in a housing section 11. Once the base of the main body 103 of the equipment is fit in with a support section 13, the main body 103 of the equipment is prevented from falling off from the housing section 11. In an opening 14, operation keys 101 of the main body 103 of the equipment are exposed. The opening 14 can be opened and closed by means of an opening and closing section 15. The opening and closing section 15 is installed with fitting pieces on the surface of the protective cover 102 which is opened and closed through the opening 14 and the opening 15 is opened and closed by opening and closing the protection cover 102.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-293682

(43)公開日 平成8年(1996)11月5日

(51)Int.Cl. <sup>9</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 5 K 5/02		7301-4E	H 0 5 K 5/02	C
		7301-4E		J
// H 0 4 B 1/38			H 0 4 B 1/38	

審査請求 未請求 請求項の数5 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平7-101446

(22)出願日 平成7年(1995)4月25日

(71)出願人 000006013

三菱電機株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

(72)発明者 松島 純治

兵庫県尼崎市塚口本町8丁目1番1号 三  
菱電機株式会社通信機製作所内

(72)発明者 中田 英司

兵庫県尼崎市塚口本町8丁目1番1号 三  
菱電機株式会社通信機製作所内

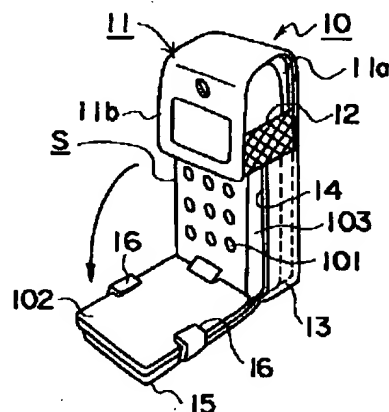
(74)代理人 弁理士 吉田 研二 (外2名)

(54)【発明の名称】 保護カバー付無線携帯機器のソフトケース

(57)【要約】

【目的】 保護カバーを備える無線携帯機器に適用しても、操作性や携帯性に優れた保護カバー付無線携帯機器のソフトケースを提供する。

【構成】 ソフトケース10は、操作キー101を覆う保護カバー102を備えた携帯電話Sを収容する。機器本体103の先端部は収容部11に収容され、機器本体103の基端部が支持部13に係合すると、機器本体103の収容部11からの抜けが防止される。開口部14は機器本体103の操作キー101を露出させ、この開口部14を開閉部15が開閉する。開口部14を通じて開閉される保護カバー102の表面に開閉部15に係合片16で取り付けて、保護カバー102の開閉によって開口部15を開閉する。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 機器本体の基端に回動自在に支持される保護カバーによって機器本体の表面に露出する操作キーを覆う無線携帯機器を収容する保護カバー付無線携帯機器のソフトケースにおいて、

機器本体の先端部を収容する収容部と、この収容部に接続され、機器本体の基端部に係合して機器本体の収容部からの抜けを防止する支持部と、収容部へ進入する機器本体を通過させ、機器本体が基端部を支持部に係合させた際に機器本体の操作キーを露出させる開口部と、支持部に接続されて開口部を開閉する開閉部とを備え、開口部を通じて開閉される前記保護カバーの表面に開閉部を取り付けて、保護カバーの開閉によって開口部を開閉することを特徴とする保護カバー付無線携帯機器のソフトケース。

【請求項2】 請求項1記載の保護カバー付無線携帯機器のソフトケースにおいて、前記収容部は、機器本体の裏面に接する基礎面部と、この基礎面部に連続的に形成され、機器本体の先端部形状に沿って折り返されて機器本体の表面に接する折り返し面部と、折り返し面部の先端と前記基礎面部とを弾性的に連結する伸縮部材とを備え、伸縮部材によって機器本体を周囲から締め付けながら収容部が機器本体の先端部に被さることを特徴とする保護カバー付無線携帯機器のソフトケース。

【請求項3】 請求項1記載の保護カバー付無線携帯機器のソフトケースにおいて、前記収容部は、機器本体の裏面に接する基礎面部と、この基礎面部に連続的に形成され、機器本体の先端部形状に沿って折り返されて機器本体の表面に接する折り返し面部と、折り返し面部の先端と前記基礎面部とを連結する蛇腹部とを備え、蛇腹部の伸縮によって収容部が機器本体の大きさの変化を許容することを特徴とする保護カバー付無線携帯機器のソフトケース。

【請求項4】 請求項1記載の保護カバー付無線携帯機器のソフトケースにおいて、このソフトケースの外表面には、その外表面に縫い合わせられる取付部と、この取付部から下方に延びてその外表面と所定の間隔を保って対向するクリップ形成部と、取付部に連続的に形成される枠部とが一体形成されたクリップ部材が取り付けられることを特徴とする保護カバー付無線携帯機器のソフトケース。

【請求項5】 請求項1記載の保護カバー付無線携帯機器のソフトケースにおいて、前記機器本体の裏面に取り付けられる付加部材が貫通する補助開口部と、この補助開口部の周縁に連続して設けられ、互いに協働して補助開口部を開閉する1対の補助開閉部と、補助開閉部の自由端同士を剥離可能に重ね合わせて貼り合わせる貼付手段とを備え、付加部材の厚みの変更に応じて重ね合わせ位置を変化させることを特徴とする保護カバー付無線携帯機器のソフトケース。

2

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、無線携帯機器を収容するソフトケースに関し、特に、機器本体の基端に回動自在に支持される保護カバーによって機器本体の表面に露出する操作キーを覆う無線携帯機器を収容するソフトケースに関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、無線携帯機器、例えば、携帯電話Sでは、図8に示すように、携帯中に誤って操作キー101が操作されることを防止するために、操作キー101を覆う保護カバー102を備えたものが増加している。また、無線電話Sの携帯性を高めるために、機器本体103の裏面に付加部材としての電池バック104を装着して一層長い通話時間を確保することができるものもある。このような携帯電話Sを携帯する場合、一般に、機器本体103の外表面を保護するためにソフトケース105に機器本体103を収容して持ち運ぶ。

【0003】 従来のソフトケース105は、機器本体103を完全に包み込む収容部105aと、この収容部105aの開口を開閉する開閉部105bとを備える。機器本体103を収容部105aに収容した後、開閉部105bを閉じれば、機器本体103の外表面は完全に保護される。開閉部105bの閉鎖状態はマジックテープ106によって維持される。機器本体103に接続されたストラップ107をソフトケース105から引き出し、ストラップ107に手を通せば、ストラップ107によって携帯電話Sの落下を防止することができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 従来のソフトケースでは、携帯電話を使用する度に機器本体をソフトケースから取り出す必要があつて、面倒である。しかも、操作キーは保護カバーによって覆われているので、ソフトカバーの柔軟性を利用してソフトカバーの上から操作キーを操作することもできない。

【0005】 本発明は、上記実情に鑑みてなされたもので、保護カバーを備える無線携帯機器に適用しても、操作性や携帯性に優れた保護カバー付無線携帯機器のソフトケースを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、第1発明によれば、機器本体の基端に回動自在に支持される保護カバーによって機器本体の表面に露出する操作キーを覆う無線携帯機器を収容する保護カバー付無線携帯機器のソフトケースにおいて、機器本体の先端部を収容する収容部と、この収容部に接続され、機器本体の基端部に係合して機器本体の収容部からの抜けを防止する支持部と、収容部へ進入する機器本体を通過させ、機器本体が基端部を支持部に係合させた際に機器本体の操作キーを露出させる開口部と、支持部に接続されて開

3

口部を開閉する開閉部とを備え、開口部を通じて開閉される前記保護カバーの表面に開閉部を取り付けて、保護カバーの開閉によって開口部を開閉することを特徴とする保護カバー付無線携帯機器のソフトケースが提供される。

【0007】また、第2発明によれば、第1発明に係る保護カバー付無線携帯機器のソフトケースにおいて、前記収容部は、機器本体の裏面に接する基礎面部と、この基礎面部に連続的に形成され、機器本体の先端部形状に沿って折り返されて機器本体の表面に接する折り返し面部と、折り返し面部の先端と前記基礎面部とを弾性的に連結する伸縮部材とを備え、伸縮部材によって機器本体を周囲から締め付けながら収容部が機器本体の先端部に被さることを特徴とする。

【0008】さらに、第3発明によれば、第1発明に係る保護カバー付無線携帯機器のソフトケースにおいて、前記収容部は、機器本体の裏面に接する基礎面部と、この基礎面部に連続的に形成され、機器本体の先端部形状に沿って折り返されて機器本体の表面に接する折り返し面部と、折り返し面部の先端と前記基礎面部とを連結する蛇腹部とを備え、蛇腹部の伸縮によって収容部が機器本体の大きさの変化を許容することを特徴とする。

【0009】さらにまた、第4発明によれば、第1発明に係る保護カバー付無線携帯機器のソフトケースにおいて、このソフトケースの外表面には、その外表面に縫い合わせられる取付部と、この取付部から下方に延びてその外表面と所定の間隔を保って対向するクリップ形成部と、取付部に連続的に形成される枠部とが一体形成されたクリップ部材が取り付けられることを特徴とする。

【0010】さらにまた、第5発明によれば、第1発明に係る保護カバー付無線携帯機器のソフトケースにおいて、前記機器本体の裏面に取り付けられる付加部材が貫通する補助開口部と、この補助開口部の周縁に連続して設けられ、互いに協働して補助開口部を開閉する1対の補助開閉部と、補助開閉部の自由端同士を剥離可能に重ね合わせて貼り合わせる貼付手段とを備え、付加部材の厚みの変更に応じて重ね合わせ位置を変化させることを特徴とする。

【0011】

【作用】第1発明の構成によれば、無線携帯機器を携帯する際には、ソフトカバーが機器本体を覆い、その外表面を完全に保護する。無線携帯機器を使用する際には、開閉部ごと保護カバーを開放すれば、そのまま操作キーを操作することができる。したがって、無線携帯機器を使用する度にソフトケースから無線携帯機器を取り出す必要がなくなり、その結果、従来のものに比べ操作性が向上する。

【0012】また、第2発明の構成によれば、収容部に伸縮部材を設けたので、伸縮部材の締め付けによって機器本体の収容を確実なものとし、同時に、機器本体の厚

4

みの変化にも対応することができる。

【0013】さらに、第3発明の構成によれば、収容部の基礎面部と折り返し面部とを蛇腹部によって連結したので、蛇腹部の伸縮によって収容部が機器本体の大きさの変化に対応することができる。

【0014】さらにまた、第4発明の構成によれば、クリップ部材の枠部にストラップを取り付け、このストラップを手につかちて持ち運ぶことができる。また、クリップ形成部をズボンのベルトの内側に差し込んだり、靴のポケットの縁に係合させたりして持ち運ぶこともできる。また、車両等の移動体に固定されたフック片にクリップ部材の枠部を引っかけて、無線携帯機器を携帯することもできる。

【0015】さらにまた、第5発明の構成によれば、補助開閉部を開放して、補助開口部を通じて機器本体の付加部材の着脱を行うことができる。しかも、付加部材の厚みの変化に応じて重ね合わせ位置を変化させつつ補助開閉部を開閉することができるので、付加部材の交換等に簡単に対処することができる。

【0016】

【実施例】以下、添付図面を参照しつつ本発明の好適な実施例を説明する。

【0017】図1および図2は本発明の第1実施例に係るソフトケース10を示す。このソフトケース10は無線携帯機器としての携帯電話Sを収容する。携帯電話Sの機器本体103の表面には、電話番号を入力したりその他の操作を行うための複数の操作キー101が露出する。これらの操作キー101を保護するために、機器本体103の基端部には、操作キー101を覆う保護カバー102が回転自在に支持される。機器本体103の裏面には、携帯電話Sに補助電力を供給するための電池パック(図8参照)を装着することができる。

【0018】ソフトケース10は機器本体103の先端部を収容する収容部11を備える。この収容部11は、機器本体103の裏面に接する基礎面部11aと、この基礎面部11aに連続的に形成され、機器本体103の先端部形状に沿って折り返されて機器本体103の表面に接する折り返し面部11bとを備える。折り返し面部11bの先端と基礎面部11aとは伸縮部材としての1対のゴムバンド12によって互いに弾性的に連結される。したがって、ゴムバンド12によって機器本体103を周囲から締め付けながら収容部11は機器本体103の先端部に被さることとなる。

【0019】収容部11には、機器本体103の基端部に係合して機器本体103の収容部11からの抜けを防止する支持部13が一体的に接続される。

【0020】収容部11と支持部13との間には、機器本体103が収容部11へ進入する際に機器本体103を通過させる開口部14が形成される。機器本体103の先端部が収容部11に進入し、機器本体103の基端

5

部が支持部13に係合すると、開口部14は機器本体103の操作キー101をソフトケース10から露出させる。この開口部14を開閉するために、支持部13には開閉部15が一体的に接続される。この開閉部15は、開口部14を通じて開閉される携帯電話Sの保護カバー102の表面に取り付けられて、保護カバー102の開閉によって開口部14を開閉する。保護カバー102への開閉部15の取り付けは、保護カバー102を両側から挟み込みながら保護カバー102に係合する1対の係合片16によって行われる。

【0021】ソフトケース10の外表面、すなわち、裏面には、クリップ部材20が取り付けられる。このクリップ部材20は、ソフトケース10の裏面に縫い合わされる取付部21と、この取付部21から下方に延びるクリップ形成部22とを備える。クリップ形成部22は、ソフトケース10の外表面から常に一定の間隔を保っていて、ズボンのベルトや鞆のポケットなどをその間隔に進入させることができる。一方、取付部21の上部には枠部23が連続的に形成される。この枠部23は、固定フックの先端を受容したり、ストラップ24の巻き付けを許容したりする。クリップ部材20は、例えば合成樹脂などにより一体成形される。

【0022】次にこの第1実施例の作用を説明する。まず、ソフトケース10の開閉部15を開放した状態で開口部14から携帯電話Sの機器本体103をソフトケース10に収容させる。機器本体103の先端部を開口部14から収容部11まで進入させ、機器本体103が開口部14を通過した時点で、支持部13に機器本体103の基端を受容させる。このとき、機器本体103の裏面に電池パック等の付加部材が付加され、機器本体の厚みが増していても、ゴムバンド12が伸張して厚みの変化を受容する。続いて、携帯電話Sの保護カバー102を開放し、保護カバー102の表面に開閉部15を重ね合わせつつ係合片16によって開閉部15を保護カバー102に取り付ける。保護カバー102を閉じればソフトケース10の取付が完了する。

【0023】携帯電話Sを使用する際には、開閉部15ごと保護カバー102を開放すれば、そのまま電話番号をダイヤルすることができる。したがって、電話を使用する度にソフトケース10から携帯電話Sを取り出す必要がなくなり、その結果、従来のものに比べ操作性が向上する。しかも、収容部11に伸縮性のゴムバンド12を設けたので、ゴムバンド12の締め付けによって機器本体103の収容を確実なものとし、同時に、機器本体103の厚みの変化にも対応することができる。

【0024】携帯電話Sを携帯する際には、例えば、クリップ部材20の枠部23にストラップ24を取り付け、このストラップ24を手につかけて持ち運ぶことができる。また、クリップ形成部22をズボンのベルトの内側に差し込んだり、鞆のポケットの縁に係合させた

6

りして持ち運ぶこともできる。また、車両等の移動体に固定されたフック片にクリップ部材20の枠部23を引っかけて、電話Sを携帯することもできる。

【0025】図3は本発明の第2実施例を示す。この第2実施例では、収容部11の基礎面部11aと折り返し面部11bとを蛇腹部30によって連結した点に特徴を有する。その他の構成は前述の第1実施例と同様なので、同一の構成には同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。かかる構成によれば、蛇腹部30の伸縮によって収容部11が機器本体の大きさの変化に対応することができる。

【0026】図4は本発明の第3実施例を示す。この第3実施例では、開閉部15の開閉軸40に平行な折れ溝41が、開閉部15の係合片16より開閉軸40側に設けられることに特徴を有する。その他の構成は前述の第1実施例と同様なので、同一の構成には同一の符号を付してその詳細な説明を省略する。携帯電話の保護カバーを開放する際、開閉部15の開閉軸40と保護カバーの開閉軸42とのずれに起因して保護カバーの表面上を開閉部15が滑って上方へずれようとする。このとき、係合片16によって開閉部15のずれは阻止されるため、保護カバーおよび開閉部15の開閉がスムーズにいかない場合が考えられる。この第3実施例の構成によれば、開閉部15が上方へずれる代わりに、折れ溝41によって外方に撓みやすくなり、その結果、保護カバーおよび開閉部15の開閉がスムーズに行えるようになる。

【0027】図5は本発明の第4実施例を示す。この第4実施例では、ソフトケース10の裏面に、機器本体の裏面に取り付けられる付加部材としての電池パックが貫通する補助開口部50を備えることを特徴とする。補助開口部50の周縁には、互いに協働して補助開口部50を開閉する1対の補助開閉部51、51が連続して設けられる。補助開閉部51、51の自由端同士は、例えばマジックテープ52、52といった貼付手段を通じて剥離可能に重ね合わされて貼り合わされる。このマジックテープ52、52は幅広に形成され、したがって、電池パックの厚みの変更に応じて補助開閉部51、51の重ね合わされる位置を変化させることができる。

【0028】なお、以上の実施例に適用されたクリップ部材20では、例えば、図6に示すように、マジックテープ61によってクリップ形成部22の先端とソフトケース10の外表面とを結合してもよい。こうすれば、ソフトケース10外表面およびクリップ形成部22間にズボンのベルト等を通して確実な保持を保証することができる。また、マジックテープ61に代えて、図7に示すように、ボタンを用いてもよい。

【0029】

【発明の効果】以上のように第1発明によれば、無線携帯機器を使用する際には、開閉部ごと保護カバーを開放すれば、そのまま操作キーを操作することができる。し

10

20

30

40

50

たがって、無線携帯機器を使用する度にソフトケースから無線携帯機器を取り出す必要がなくなり、その結果、従来のものに比べ操作性が向上する。

【0030】また、第2発明によれば、収容部に伸縮部材を設けたので、伸縮部材の締め付けによって機器本体の収容を確実なものとし、同時に、機器本体の厚みの変化にも対応することができる。

【0031】さらに、第3発明によれば、収容部の基礎面部と折り返し面部とを蛇腹部によって連結したので、蛇腹部の伸縮によって収容部が機器本体の大きさの変化  
10 に対応することができる。

【0032】さらにまた、第4発明によれば、単一のクリップ部材を用いて、ストラップによる携帯の外、クリップ形成部をズボンのベルトの内側に差し込んだり、鞆のポケットの縁に係合させたりして持ち運ぶこともできる。また、車両等の移動体に固定されたフック片にクリップ部材の枠部を引っかけて、無線携帯機器を携帯することもできる。したがって、無線携帯機器の携帯性が向上する。さらに、金属性以外の材料でクリップを形成することにより、無線携帯電話機の内部アンテナに悪影響  
20 を及ぼすことなく、性能を安定させることができる。

【0033】さらにまた、第5発明によれば、補助開閉部を開放して、補助開口部を通じて機器本体の付加部材の着脱を行うことができる。しかも、付加部材の厚みの変化に応じて重ね合わせ位置を変化させつつ補助開閉部を開閉することができるので、付加部材の交換等に簡単に  
対処することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 携帯電話を収容した本発明の第1実施例に係るソフトケースの正面側斜視図である。

【図2】 図1のソフトケースの背面側斜視図である。

【図3】 本発明の第2実施例に係るソフトケースの正面側斜視図である。

【図4】 本発明の第3実施例に係るソフトケースの正面側斜視図である。

【図5】 本発明の第4実施例に係るソフトケースの背面側斜視図である。

【図6】 クリップ部材の変形例を示すソフトケースの背面側斜視図である。

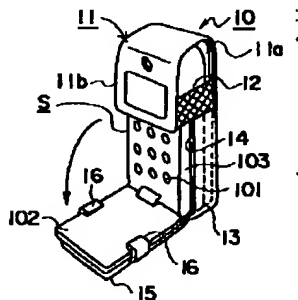
【図7】 クリップ部材の他の変形例を示すソフトケースの背面側斜視図である。

【図8】 従来のソフトケースと携帯電話との関係を示す図である。

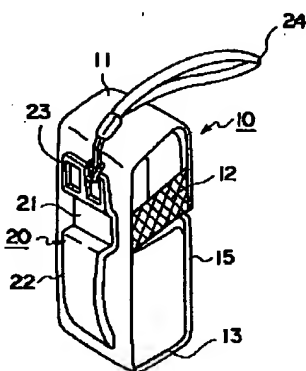
【符号の説明】

10 ソフトケース、11 収容部、11a 基礎面部、11b 折り返し面部、12 伸縮部材としてのゴムバンド、13 支持部、14 開口部、15 開閉部、20 クリップ部材、21 取付部、22 クリップ形成部、23 枠部、30 蛇腹部、50 補助開口部、51 補助開閉部、52 貼付手段としてのマジックテープ、101 操作キー、102 保護カバー、103 機器本体、104 付加部材としての電池パック、S 無線携帯機器としての携帯電話。

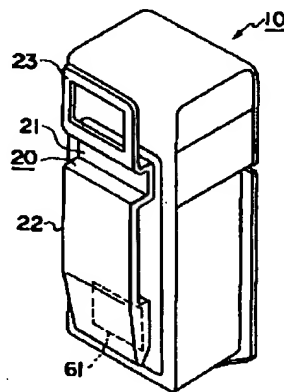
【図1】



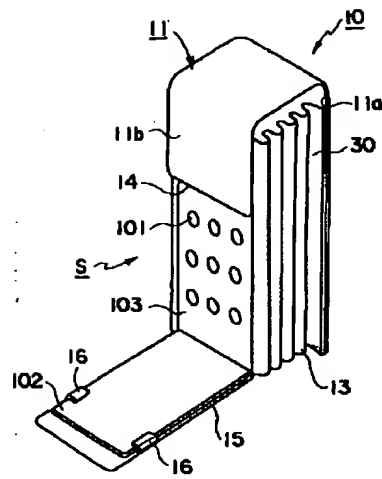
【図2】



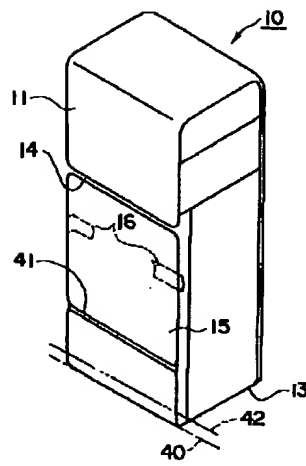
【図6】



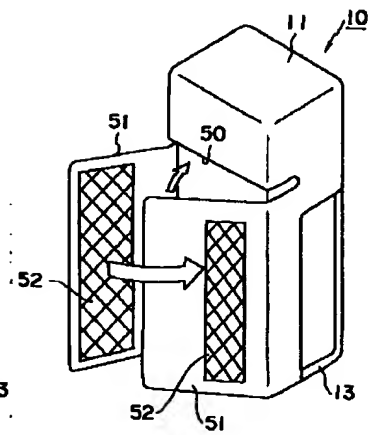
【図3】



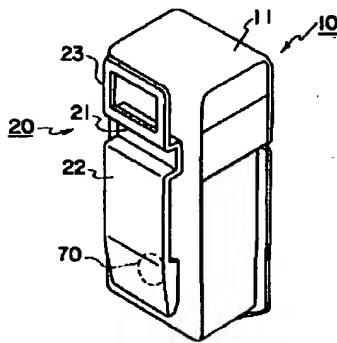
【図4】



【図5】



【図7】



【図8】

